

日本聖公会

大阪教区報



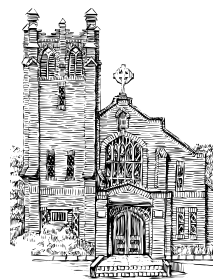
西宮聖ペテロ教会



東豊中聖ミカエル教会



聖ルカ教会



主教座聖堂 川口基督教会

日本聖公会
大阪教区総務局〒545-0053
大阪市阿倍野区
松崎町2-1-8

TEL 06-6621-2179

FAX 06-6621-3097

発行責任者
総務局長 司祭 内田 望

+++++ 第502号 2022年9月20日発行 +++++

私たちはどのように返礼しましょうか

司祭 ジョイ 千松 清美

聖霊降臨後第12主日のルカによる福音書14章1、7、14節より、神の国への招待と心の謙虚さが深く結びついてい

ることを、イエス様はたとえ話をういて教えておられます。社会生活において招待を受けたらお返しに今度は自分の催す食事に招待することが通常であるとすれば、神様から招待された宴会に對して、私たちはどのように返礼することができようでしょうか。神様の面前ではどうやっても正しく、清い、完璧な人であることが出来ません。何をもちて招待の返礼をするのでしょうか。

聖餐式で、主の食卓の会食にあずかることにより、私たちは主の呼びかけを多くの人々に届ける使命と力をいただいて派遣されていきます。イエス様が私たちに何をしてくださったのか、私たちが受け取るものの大きさと深さを考えると、私たちへの招きに

ついでに皆さんの答えはどのような形へと変えられるでしょう。

3年前、マレーシアで行われた台湾聖公会の聖ヨハネ科学技術大学チャプレン室が企画、指導する海外宣教キャン



プに、日本側から参加の青年1名の引率で行ってきました。滞在中の主日のことです。私はある教会で説教を担当しました。日本語で説教をし、同行してくれた京都教区の信徒の方が中国語に翻訳してくれました。マレーシアは大き

く4つの民族系統をもちます。マレー人、中華系、インド系、その他少数民族住民です。私たちは、中華系クリスチャンの人々の所をおもに訪問しましたので、通常の言葉は中国語になりました。私も通訳の方もとても緊張して説教に挑みました。私の話す日本語の説教を理解しているのは通訳者だけです。40人ほどの会衆席に座っている方々は、誰も私が何を話しているのか分かりません。誰も理解することの出来ない言葉を用いて、一生懸命に、心を込めて語るといふ不思議な経験をしました。

それでも、会衆席にいる皆さんは、真剣な面持ちで私の目を見て説教を聴いていてくれました。私の説教のあと、台湾からの青年が証しました。中国語のみでしたので、証の内容は私には一切分かりませんでした。しかし、会衆席の皆が大きな声をあげて笑い、興味津々に彼女の証しを聴き、最後は大きな拍手でその場に

いる皆が喜んでいました。私の説教の時と大違いです。これで私は惨めな気持ちになったのかというそうではありません。私の説教は彼女の証しの前座のようでした。聖書の御言葉に触れて、それから実践的な現実の神様の働きを耳にする。そのような流れが出来ていたのだと、言葉が分からなくても私は感じ取りました。私は自分の立場と役割が、司祭というとても重要な仕事を担っているという自負をもつて礼拝と説教に臨んでいました。けれど、私は大変大きな任務を負った証し人である後から支える者であること

を知らされました。そして支えて、押し出す役割が私にはあり、そのこともまた大変な重責が与えられていることを教えられました。

『信じる者の救いである神よ、あなたは高ぶる者を退け、へりくだる者に目を留めてください。わたしたちが神の前に皆等しく、心の貧しいことを悟り、キリストのことに希望を見いだすことができますように。(カトリック教会集会祈願より)』

(石橋聖トマス教会牧師)

生涯学習委員会プログラム

釜ヶ崎炊き出しボランティア

「ともにいる」よろこび

司祭 フランチェスコ 成岡 宏晃

8月9日(火) 猛暑の日差しが照り付ける西成区萩之茶屋「いこいの家」にて、生涯学習委員会が青年のプログラムとして企画した釜ヶ崎炊き出しボランティアが開催されました。ボランティアに先立ち3回の事前学習会を企画し、延べ人数3人の参加者が与えられましたが、参加者の体調不良もあり、炊き出し当日は3人の教役者と、同日にボランティアに参加していたプール学院高等学校の高校生3人での実施となりました。

お米一粒、水道の水一滴も無駄にしない米加田周子牧師のご指導の下、わたしたちの日常生活に当たり前のように備えられている食べ物や資源の大切さに気づかされました。また、四角公園で配膳をさせていただいている時には、お一人おひとり人生の一端に関わらせていただける感謝を抱きながら、「どうぞ」、「ありがとう」という何気ない素朴な言葉をかけあい、「ともにいる」よろこびを分かち合えました。

時に、「必要以上」を求め続けているわたしたちの日常生活ですが、「残り少ないから他の人のために」とつとめてあげて」と夏の炎天下で、2つのやかにに蓄えられていた冷たいお茶を一人でも多くの方と分かち合ってお



られた釜ヶ崎のみなさんとの出会いをとおして、「わたしたちの日ごとの糧を今日もお与えください」という祈りを改めて心に刻み、他者と「ともにいる(いさせていたただく)」、「ともに生きる」共同体の一員として襟を正し、主のみ心を求め続けてまいりたいと心新たになる実り豊かな一日でした。

(城南キリスト教会牧師・プール学院中高チャプレン・生涯学習委員)

夏の一日黙想会

司祭 ジョイ 千松 清美

聖職養成委員会主催の夏の一日黙想会が8月17日(水)、石橋聖トマス教会で行われました。コロナ後、原点に戻り、聖職の働きを考える機会として、前神戸教区主教の中村豊(なかむらゆたか)主教さまからお話を伺いました。

中村主教は、出自から始め、神学教育を経て、牧師としての様々な経験、またヨハネによる福音書1章35節、51節を引用され、聖職に召される意味を話されました。牧師として信徒との関係性には、コンパッション(慈悲の心や共にいること)が必要とされ、イエス様が苦しまれた同じ苦しみを担う覚悟が大切であること、また人との繋がりの中に喜びが見出される牧会が大事であることが語られました。

経験に基づいて話される内容は、大変身近な課題として受け取ることができ、神様が確かに生きて働かれる実際を聴くことで、私自身は大きな励ましを受けた黙想会となりました。



参加者は教区神学生を含めて、10人で、最後の夕の礼拝で大阪聖三一教会のために信施が献げられました。

(聖職養成委員)

大阪教区婦人会 秋の修養会

2022年10月18日(火) 13時
於：尼崎聖ステパノ教会
講師：松平功司祭

「守口ぶどうのいえを
知ってください」

神学生後援会主催

神学生を囲む集いー5年ぶりに開催！

ミリアム 増山悦子



まず薦
田神学生
から、聖
職希望に
至る動機
や経緯の
お話があ
りました。
た。高校
1年生
だった娘
さんの登

8月21日(日)午後3時より、大阪聖愛教会において実に約5年ぶりに「神学生を囲む集い」が開かれました。5年間もの間この会が開催されなかったのは、2020年からのコロナ禍もありますが大阪教区からの神学生が1人もいなかった事に他なりません。今年度は3人の神学生が与えられ、宮本憲神学生は体調不良で、大倉有紀神学生は8月8日に2人目のお子さんを出産されたため今回は薦田久美子神学生お1人の出席となりました。

校拒否をきっかけに薦田神学生の母校で開かれていた生涯教育講座の「ゴスペル講座」に2人で通い始め、そこでイザヤ書の「わたしの目にはあなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している。」という言葉に出会って聖パウロ教会に通い始めたそうです。そこで「向こう岸へ渡ろう」というイエス様の言葉に背中を押されて、聖職者への道を選ばれたというお話でした。その後神学館での生活について触れ、「バイコン(聖書内容試験)」の難しさや、ほぼマンツーマンの授業であることなどを話されました。

4人の出席者の方々から質問があり、大阪教区で2人目となる女性司祭への思いや教会実習での事、聖職志願した事に対するご家族の反応などについてのお話がありました。

10分の休憩を挟んで、金山司祭の司式で夕の礼拝が行われ、内田司祭がお説教の中でご自身の神学生時代の思い出

の語られ、「神学生は多くの人達に受け入れられて守られている」と力強く締められました。

出席者は磯主教様をはじめ常任理事・理事合わせて24人、理事以外の聖職者4人。久しぶりの開催となった会は和やかなうちに幕を閉じました。

(神学生後援会理事・

川口基督教教会信徒)



羊だより

平和あつてこそ

先日、信徒のF兄から、ご自身が新聞に投稿された文章の切り抜きコピーを頂戴致しました。「高校野球 平和であつてこそ」という題がついておりました。ご一緒に味わって頂けたらと思います、ご紹介致します。

〈終戦の日を過ぎ、第100回(磯の追記・2018年)全国高校野球選手権記念大会も無事終わりました。この時期、祖母が大切にしていた私の父とその弟の遺品に思いが募ります。父の遺品は色あせた臨

時招集令状。「二十年八月二十六日十三時」に部隊に参集するようにと書かれています。叔父は「選抜野球大会優勝記念」の文字入りのペーパーナイフや、「中等学校野球」の印が押され球友がサインした硬式野球ボール、昭和10年代の日記や軍隊入隊後に届いた手紙を残しています。

戦前の中学校野球で、叔父は活躍しました。1937年の春の選抜では優勝。同じ年、1回戦で敗れましたが夏も甲子園の土を踏み、捕手で4番、4打数で2安打を放っています。卒業後は東京六大学でもプレーしましたが学徒

動員され、44年8月19日、台湾とフィリピン間のバシー海峡で命を落としています。祖母がどのような気持ちで遺品を残したかと思うと、とても複雑で心苦しくなります。平和であつてこそその高校野球だと思えます。ですので、8月15日を平和の日と世界に提案したいと思えます。〉

F兄の父上、叔父上、そして御祖母様への思いのこもった投書です。父上、叔父上の無念、御祖母様の悲しみはい

かほどだったかと思いを深く致しました。77年以上も前、本来殺し合う必要のない人々が殺し合い、尊い命が奪われました。アジアだけでなく世界中の未来ある人々が亡くなりました。亡くなった方の未来は誰も取り戻すことはできません。

このメッセージを書いていく時、ちょうど高校野球の真最中でしたので、「平和あつてこそ高校野球」というのは、本当にその通りです。

更に無念でありますのは、その後も人類は平和を実現できてはいないということです。ウクライナとロシアはじめ世界中で争いは続いています。本来殺し合う必要のない人々が、殺し合い、尊い命が失われています。これが戦争です。

F兄は、8月15日を「平和の日」とすると言う提案をされています。私は、投書を読みながら、より積極的に、奪われた尊い命を思い、「平和の実現を求める日」として、提案をしたいと考えました。

(主教アンデレ)

ランベス会議からの呼びかけ

主教 アンデレ 磯 晴久

私たちの主イエス・キリストの父なる神が、ほめたたえられますように。神は、豊かな憐れみにより、死者の中からのイエス・キリスト復活を通して、私たちを新たに生まれさ、生ける希望を与えてくださいました。

(ペトロの手紙Ⅰ:3)

主の平和をお祈りします
磯は、本来、何を置いても駆けつけるべきランベス会議でしたが、体調不良により、今回参加を断念致しました。しかし、少しでも、学びの時、黙想の時を持ち、雰囲気を感じ取ることができればということで、開会礼拝、閉会礼拝、聖書研究、講演会等によりリモートとYou Tube等で参加させて頂きました。

ランベス会議は1867年、当時のカンタベリー大主教チャールズ・トーマス・ロングリー師が、後にアングリカン・コミュニオン(共同体)となる国々の主教を、ロンド

ン・ランベス公邸に招き、会議を開いたのが第1回目の会議でした。以後、ランベス会議は、文化の違いを超えて、アングリカン共同体の教会生活や活動を形成する上で、重要な役割を果たし、大きな影響を与えてきました。

2022年のランベス会議には、「神の世界のための神の教会」共に聞き、共に歩み、共に証しする」と言うタイトルがつけられました。そして、その特徴は、基本的に決議が出されない会議だということです。カンタベリー大主教は、「ランベス・コール」というプロセスを採用することを決定されました。

テーマは、「宣教と福音伝道」「和解」「セーフ・チャーチ」「環境と持続可能な開発」「キリスト者の一致」「宗教間対話」「聖公会のアイデンティティ」「人間の尊厳」「弟子であること」です。165か国から集まった主教たちは、各テーマについて、聖書(主に、ペ

トロの手紙Ⅰ)に基づいて、共に学び、経験を分かち合います。そして、これらのテーマについて、お互いに、仲間のキリスト者たちに、そして世界に対してどのような行動、変化、挑戦を与えたいと考えているかを表明し、管区・教区・教会に対する神の呼びかけを見極めていこうとしています。

私たちのところにも、ランベス・コールが届きます。※少しカンタベリー大主教による聖書研究の様子をご紹介します。聖書研究の初めには、このランベス会議のための特別のゴスベルグループによる賛美の時間があります。本当にすばらしい賛美の時間です。「心を神さまに向かって高く上げよう、みんな一緒にいのちのパン主イエスのもとに行こう」と素敵な賛美がささげられていました。そして、大主教の聖書研究が始まります。第1回目のテーマは、最初に記した聖書箇所から、主イエスのくださる「Hope—希望」についてでした。大主教は聖書研究の中で、「あなたにとって希望とは何か」を参加者に問い、参加者

同士の話し合いの時間があります。何より関心したのは、リモートを使って、この場には参加していない世界各地の主教や司祭、信徒(青年たち)、他教派牧師の声が会場に流れ、議論を深めていたことです。こうした方法は、私たちも学びの時や話し合いの時に有効ではないかと感じました(ホームページから入ることができるプログラムもありますので、是非ご覧になってください)その他、「違い」と言う言葉がよく聞かれ、165か国から集まっていること、言語や文化、伝統など多様性をもった聖公会であることが強調され、その違いがいのちのパン主イエスによって包み、つながれていくことが語られていました。そして、対話の中から更に高みへと導かれていくという希望が感じられました。

※これらの情報は、ランベスカンファレンス発行「歴史と目的」より頂きました。

(教区主教アンデレ)



新連載

『杖一つ』のお知らせ

いつも広報委員会にご意見をいただき感謝いたします。いただきましたご意見を拝見致しますと、信徒の声を聞かせてほしいという事をよく見ます。これを受けまして次号より、『杖一つ』と題しまして連載を始めることにいたしました。信仰の道を歩み、未来へと向かう旅路にある私達です。その旅路を支える信仰の杖を、一つの教会、そして一人ひとりの物語の中から得たい、そのように思いこのタイトルをつけました。具体的な内容としては、現在、教会・信徒の取り組みとして活動していることの報告や、一人の人として信仰生活をする中でのお会い、苦しみ、許しなど個人の思いを分かち合うことなど考えおります。

全教会を少なくとも一周する予定をしております。ご自身の教会に番がきましたら、是非快くご執筆をお引き受け頂きたいと思っております。

(広報委員長)



動画：「聖公会生野センターという福音」(12分)
上のQRコードからアクセスしてください。
大阪教区のHPからも視聴できます。

2022 大阪教区教区礼拝 聖公会生野センター 30 周年記念感謝礼拝

「そこにキリストは共にいる」
～弱った手に力を込め よろめく膝を強くせよ。(イザヤ：35：3)～

2022 年 10 月 10 日 (月・休)

場所：プール学院中学校・高等学校メアリーズホール
＜大阪市生野区勝山北1-19-31＞

13 時 30 分～＜聖餐式＞

司式：武藤謙一 首座主教・磯崎久 主教・植松誠 主教

説教：李京浩 主教 (大韓聖公会議長主教・ソウル教区主教)

15 時 30 分～ パネルディスカッション

＜聖公会生野センターのミッションを語る＞

パネリスト

井田泉司 祭 (京都教区 退職)

池住圭さん (日本聖公会正義と平和委員会)

松原恵美子さん (大阪教区)

聖公会生野センター 30 周年の祈り

信頼と和解の源である神よ、人間の愚かと誤りによって未だに戦争、弾圧、差別、分裂の絶えないこの世界を顧みてください。あなたはみ子イエス・キリストによって、貧しく小さくさせられた人とともに生きることこそがあなたのみ心であると示されました。どうか、あなたのみ名によって建てられ創立 30 年の節目の時を迎える聖公会生野センターと連なるすべての人を祝福し、さまざまな違いを持つ人たちと共に生きるために、憐みの心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に着けさせてください。また、わたしたちが在日韓国朝鮮人の歴史を正しく振り返り、共に生きる社会の礎となりますように祈ります。そしてあなたの愛に根差して和解の新たな歴史を創り上げていくことができますように、わたしたちの心の頑なさを取り除いてください。憐みの主、み子イエス・キリストによってお願いいたします アーメン

大阪教区関係教役者
10月逝去者記念聖餐式

10月12日(水) 10:30~

- 2日 司祭 ジョージ・チャプマン (1940英)
 5日 司祭 サムエル ^{ふくだ} 福田 ^{みつひろ} 光宏 (2013)
 9日 主教 ヨハネ ^{やまだ} 山田 ^{じょう} 襄 (1993)
 12日 司祭 マルコ ^{おか} 岡 ^{せいぞう} 精三 (1997)
 16日 主教 ペテロ ^{まつい} 松井 ^{よねたろう} 米太郎 (1946)
 主教 サムエル・ヘーズレット (1947英)
 18日 司祭 ステパノ ^{こば} 木庭 ^{まごひこ} 孫彦 (1928)
 20日 司祭 チャールズ・セオドア・ワレン (1949英)
 23日 司祭 ステパノ ^{えんどう} 遠藤 ^{としお} 敏雄 (1971)
 24日 司祭 ^{ふかだ} 深田 ^{なおたろう} 直太郎 (1971)
 司祭 ペテロ ^{よこた} 横田 ^{ひさあき} 久明 (1995)
 25日 宣教師 イブリン・アリス・レーン (1971英)
 29日 司祭 セオドシアス・ステファンズ・ティンゲ (1927米)

*教役者逝去記念聖餐式は、毎月第2水曜日午前10時30分から、川口基督教会で行われます。ご関係の有無にかかわらず、どうぞ自由にご参加ください。



大阪教区合同埋葬式のご案内

日時：2022年11月5日(土) 14時より

場所：大阪霊園

(大東市龍間 331 TEL 0120-69-1117)

申請締切り：9月末

お問い合わせは大阪教区事務所 太田まで
 教区事務所 TEL 06-6621-2179



洗 礼

石橋聖トマス教会 (8月21日)

ルカ 山口 ^{やまぐち} 匠翔

初 陪 餐

石橋聖トマス教会 (8月21日)

ルカ 山口 匠翔

逝 去 者

川口基督教会

(8月22日・88歳)
 マリヤ 吉津 ^{よしづ} 明代 ^{あきよ}

魂の平安をお祈りします

主教巡回予定(10月)

2日 高槻聖マリヤ教会

(創立記念礼拝)

9日 川口基督教会

16日 大阪聖愛教会

23日 聖ルシヤ教会

30日 大阪聖三一教会

お詫びと訂正

○6頁4段目

(正) 高槻聖マリヤ教会
 (誤) 高槻聖マリヤ教会

お詫びして訂正致します。

編集後記

暑さも些か和らぐ9月を迎えました。この8月は多くのイベントがありました。どれも数年ぶりの開催であり、世界の大聖公会が一同に会するランベス会議は11年ぶりに開催されました。神学生を囲む集いは5年ぶり、生涯学習委員会の青年活動に関しては3年ぶりの再開であります。どれもコロナによって延期していたものですが、こうして教区の活発な宣教が再開されたことは本当喜ばしいことで、昨年のこの時期、いつもあるべき報告がなく、どうして紙面を埋めていくかと苦心していたことを思い出します。幸いなことに今年は沢山の報告が載せられることに本当に感謝です。次号は、4ページにご案内させていただいたように、新連載をご用意しております。信徒の皆さんの声を教区報にお載せするのは大切な使命でありますから、何卒皆さまのお支えをお願い致します。

(広報委員長)